

島根県の地震

令和3（2021）年5月

・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値です。後日、再調査のうえ修正されることがあります。

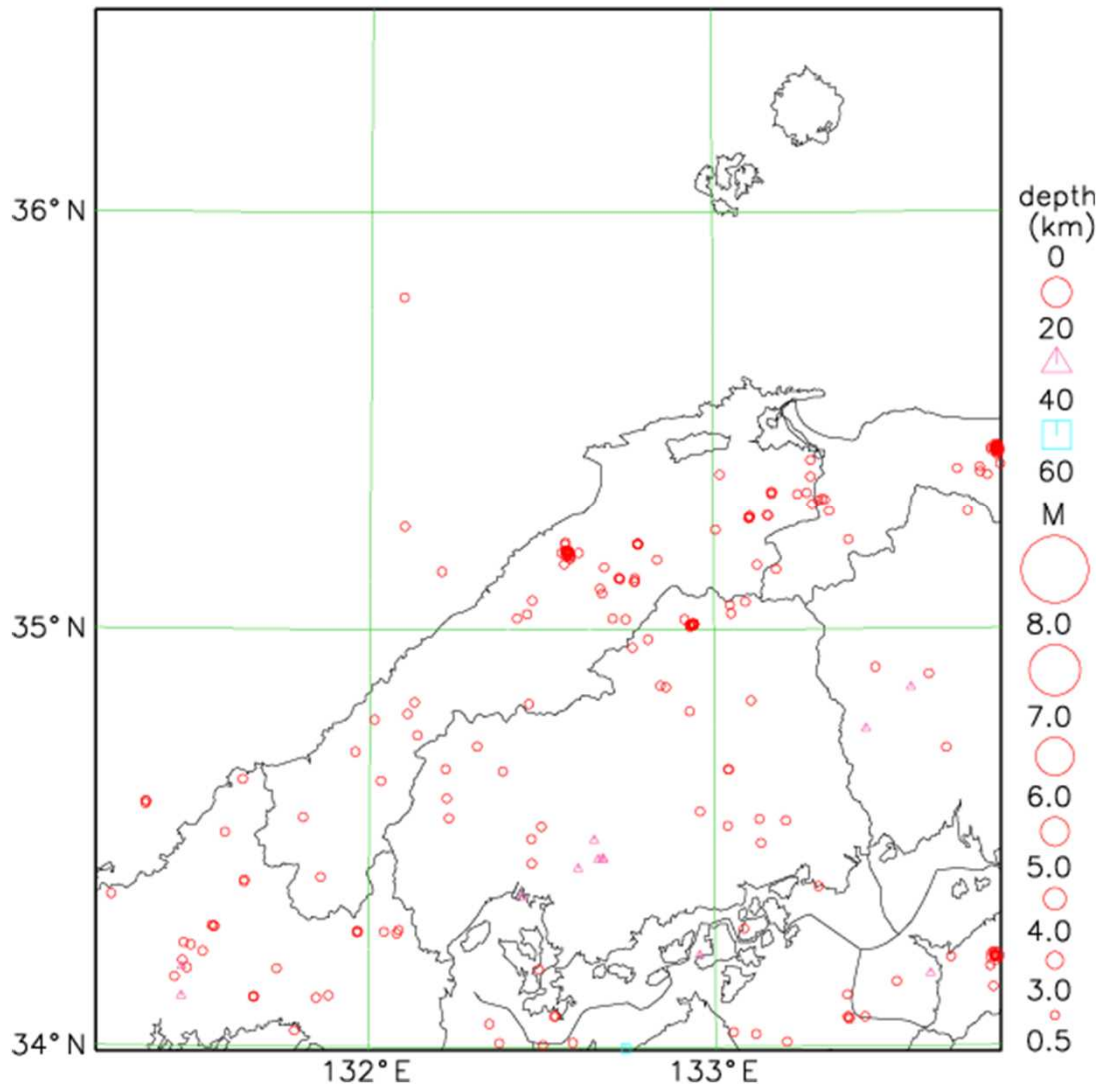
・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを基に作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを利用しています。

松江地方気象台

島根県およびその周辺地域の地震活動 2021年5月1日～31日

2021 05 01 00:00 -- 2021 05 31 24:00

N=231



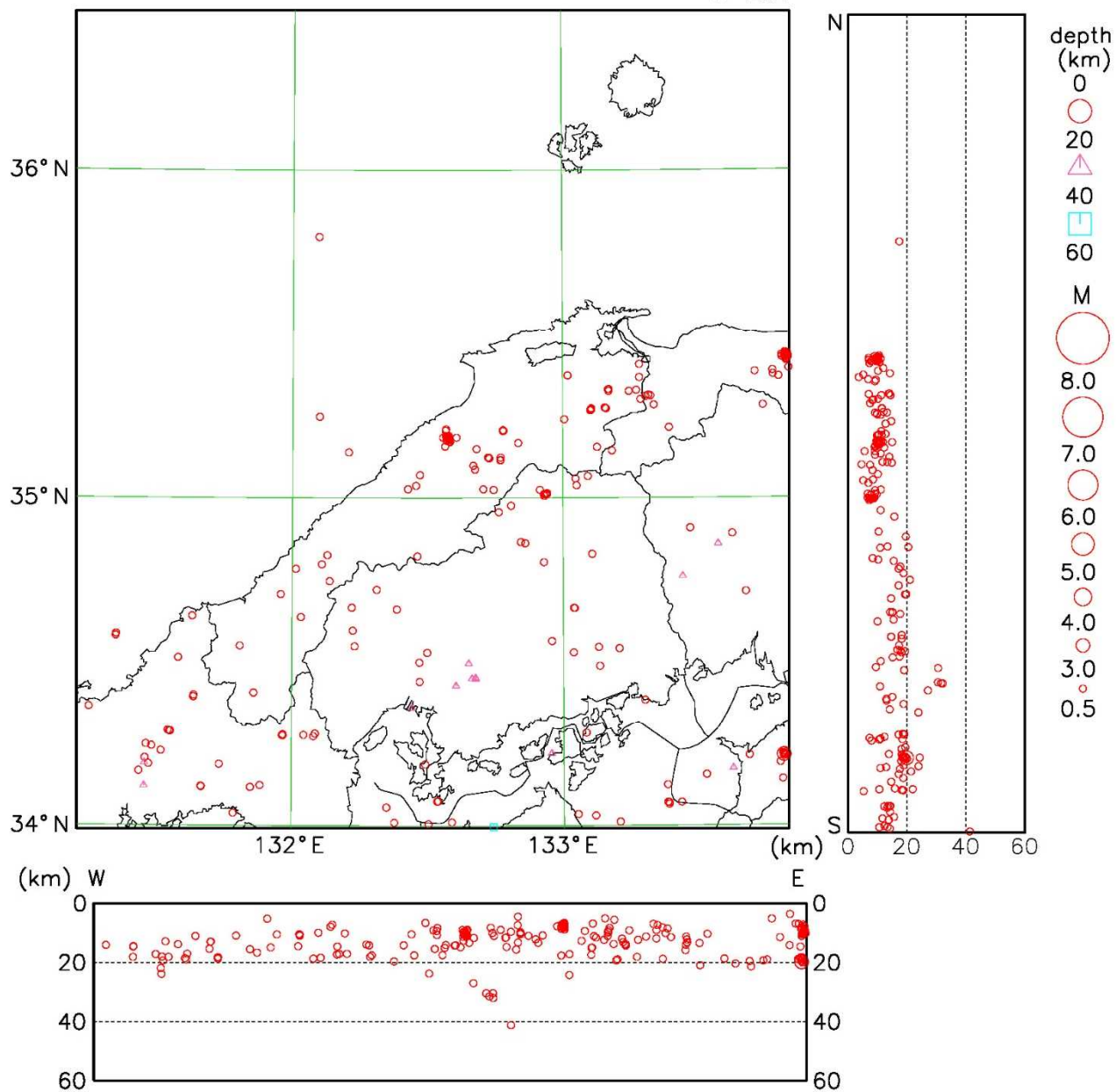
[概況]

今期間、M0.5以上を観測した地震は231回（4月は219回）でした。
また、島根県内で震度1以上を観測した地震は、ありませんでした。

[断面図]

2021 05 01 00:00 -- 2021 05 31 24:00

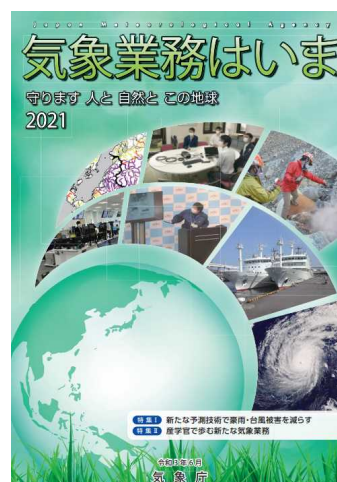
N=231



「気象業務はいま 2021」 ～ トピックス 津波フラッグ ～

気象庁では、気象庁の取組の現状と今後の展望など、気象業務の全体像について広く国民の皆様にご覧いただくことを目的として、「気象業務はいま」を毎年6月1日の気象記念日にあわせて刊行しています。

「気象業務はいま 2021」は、気象庁ホームページの「気象庁関連の刊行物・レポート」ページにも掲載しています。



<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/hakusho/2021/HN2021.pdf>

「気象業務はいま」には様々な記事が掲載されていますが、地震津波関係ではトピックスとして**津波フラッグ**を取り上げています。

気象庁が発表する津波警報等は、テレビやラジオ、携帯電話、サイレン等様々な手段で伝達されますが、海水浴場等における津波警報等の伝達に、赤と白の格子模様の旗である**津波フラッグ**を定めました。

津波フラッグを用いることで、聴覚に障害をお持ちの方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方はもちろんのこと、外国人の方にも津波警報等の発表をお知らせできるようになります。

この夏、海水浴にお出かけの際には、その海水浴場が津波フラッグの運用を開始しているのかどうかご確認の上、運用をしている海水浴場では、**津波フラッグ**が掲示されているのを見かけたら、速やかに避難を開始してください。

津波避難タワーで津波フラッグを掲出している様子



大磯海岸で行われた津波フラッグ掲出デモンストレーション

津波フラッグを建物から垂れ下げている様子



唐津海上保安部より提供